

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	別府療育センター キネサポ亀川店			
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 2日 ～ 令和6年 12月 20日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 2日 ～ 令和6年 12月 20日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月26日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	独自のBe-Youプログラムを用いた運動療育を実施しており、5療育を踏まえて支援計画を立案できる。	・個々のニーズに合わせた個別療育の実施をBe-Youプログラムを日常動作訓練、創作的活動、機能訓練、集団生活適応訓練を日の活動に取り入れている。	・遊びを通して、子どもの自発性・自己肯定感を育むために、定期的にBe-Youプログラムの研修会（勉強会）を実施し職員のスキルアップしている。
2	理学療法士・保育士・児童指導員といった専門職が、療育・支援に携わっている。子どもの発達状態に応じた個別活動と集団活動が出来る。	・理学療法士と保育士が意見を出し合う事で、互いの専門性を高めることで、スモールステップで困りごとの解消に成果が出ている。また工夫された遊びを通して、ソーシャルスキルや即時反応をめる指導を行っている。集中力、自発性、表現力などへの働きかけを行っている。	外部講師を招いた研修会や外部での研修会（オンラインを含む）に積極的に取り組み専門的な知識を深め、利用者さんの困りごとに対処していく。
3	手厚い支援体制	職員は人員加配により、個別に療育に対応することが可能であり、より注意深く個々を観察できるので支援計画に的確に反映できる。	・今後は、子育てサポート加算や家族支援加算を定期的に活用して 保護者様への相談援助なども積極的に取り組む。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等の交流や地域の子どもと交流する機会がない。	幼稚園や保育園とカリキュラムが異なるので、交流するための共通なものが見出しにくい。	利用児が通っている幼稚園や保育園と連携を深めつつ、交流する機会を模索していきたい。
2	地域とのつながりが全くない。	散歩や公園での課外活動時には、挨拶を交わすように心がけているが、地域の方と利用児が触れ合う時間を作るようにする。	自治会に加入し、事業所が参加できるイベントに参加する。自治会の協力を得て利用児が参加できるような企画を提案する。
3	保護者との連携	月1回の公開療育を実施しているが保護者の参加が少ない背景として告知方法などを見直す。	公開療育を保護者参観日として告知し、かつ保護者同士の交流会や個別面談なども合わせての実施を検討する。